

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400333		
法人名	社会福祉法人阿育会		
事業所名	グループホームあすなろ		
所在地	千葉県香取市玉造483-2		
自己評価作成日	令和4年1月31日	評価結果市町村受理日	令和4年4月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku./12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート楽楽		
所在地	千葉県旭市口1004-7	TEL	0479-63-5036
訪問調査日	令和3年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者に関心をもち、役割をもつて頂く
②なじみの関係の継続支援
③田園風景を見ながらの散歩
④施設敷地内の野菜作りと、採りたての野菜を使った料理
⑤職員が定着しており、家庭的な雰囲気である

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営主体が有限会社から社会福祉法人に合併されたが、職員もそのまま利用者には特に大きな変化になっておらず、長引くコロナ禍で、外出に制限がある中、職員の工夫で家庭菜園や花や柿木、梅野木等が植えてあり、庭での食事や野菜の収穫等、楽しく生活できるよう工夫している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念 1271400333					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングのよく見える場所に理念を提示し、いつでも確認できるようにしている。また、昼・夕食前に全員で唱和している。問題に直面した時には、理念に照らして検討することで解決できている。	理念等はリビングの見える所に掲示され、利用者と共に昼、夕食前に唱和されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事には、代表が出席している。また、体力的に心配のない方にはこれまで通っていた病院や美容室へ続けて通って頂いている。	コロナ禍で、地域の祭りや行事等が中止や延期になっており、近くのスーパーマーケット、病院や美容室等へは、今までと変わりなく通えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	身体拘束等の適正化のための対策委員会で事例と支援の方法を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、入居者の状況や活動の報告をしている。その際、メンバーに地域に貢献できることや、災害対策について、要望や助言を頂いている。今年度はコロナの影響で書面開催している。	コロナ禍で、書面開催になっているが、電話や毎月のお便り等で、意見や要望を聞き取りサービスに生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催している地域密着サービス連絡会に参加している。また、運営推進会議には市の職員に必ず出席して頂き、意見交換の場を持っている。	運営推進会議等は、書面開催になってしまっているが、日頃から連絡等をこまめに取るようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行っている職員ミーティングで年に4回は身体拘束についての社内研修を行っている。	身体拘束は行っていない。身体拘束についての研修も内部で行い、職員は利用者を見守り支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のために社内研修を行ったり、『虐待の目チェックリスト』を使用し、振り返りを行っている。又、職員のストレスが軽くなるように管理者も出来るだけ、介護業務に入り、職員の気持ちを理解できるように努めている。		

[評価機関]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	交代で権利擁護に関する研修に参加し、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書を提示しながら説明し、質問や疑問等には丁寧に回答している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、要望や意見を言い易い環境作りに努めている。又、契約時、こちらに言いづらいことは、市や運営適正化委員会に相談できることを説明している。	契約時、事業所に言いづらいことは、市や運営適正化委員会に相談できることを説明している。全員で意見や要望を言いやすい環境作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日の申し送りや月1回のミーティングで職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。	管理者は、話しやすい雰囲気作りに努め、日頃から業務の中や申し送り時、会議等で意見や要望、提案等を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が自信を持って働けるよう、知識の提供や労いの言葉掛けをこまめに行なっている。また、入居者の状態の変化で業務内容がきつuitと感じたときは、話し合いの機会を設け改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中で不足していると感じた時はその都度助言している。又、一人ひとりに合った研修が受けられるように計画を立てたり、興味のある研修にはどんどん参加してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は同業者との交流に、年数回参加しているが、その他の職員は交流をほぼ行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、不安なことや要望をよくお聞きしている。また、入居者とスタッフが自己紹介し、新しい環境で早く自分の居場所をみつけられるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、話しやすい環境を作り、不安なことや要望をゆっくりお聞きするようにしている。質問や要望には丁寧に対応し、信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時から、どのような支援を必要としているのかお聞きし、ケアプランを作成しサービスを提供している。入居後もこまめに様子観察や声掛けを行ない、その都度対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来ること、興味のあることを続けていけるように支援している。毎日、自信を持っていきいきと生活ができるよう、労いの言葉を忘れずに掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	良好な関係が継続できるように面会や衣替え、受診等をご家族にお願いしている。本人の様子の変化や心配事はその都度、ご家族にお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体力的に問題のない方には、これまで通っていた病院や美容室を引続き利用して頂いている。また、祭り見物や花見等、馴染みの場所に出来るだけ外出して頂いている。	これまで通っていた近くのスーパーマーケットや病院、美容室は引き続き利用している。祭りや地域行事等はコロナ禍で、中止や延期になっているが、近くの花見等は車で出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他入居者に出身地や趣味、特技等、差支えない程度で教えて頂き、話すきっかけを作るようにしている。又、困っている方がいたら思いやりをもって接して頂けるよう入居者にもお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	医療機関への入院や、特別養護老人ホームへの移動等で退去となる場合もあるが、その後も状態が落ち着くまで相談にのったり、情報の提供を行なっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時や必要時、必ず本人とご家族から今後の意向や希望をお聞きし、それにそったケアプランを作成している。	普段から利用者や家族の希望や意向を聞き、ケアプランを作成している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時やその後の経過の中で本人やご家族から、生活歴やサービス利用の経過をお聞きし、把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から、本人のできることを見つけ続けて頂いている。食事やおやつ、体操の時間以外は出来るだけご自身のペースで過ごして頂くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に、本人やご家族に意向や希望をお聞きしている。また、日々の申し送りやミーティング時にスタッフ全員で検討している。	利用者、家族に意向や希望を聞き、申し送りやミーティング時に職員全員で検討しケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、時間を追って介護経過に記録し、スタッフ間で情報共有をしている。ケアプランの見直しが必要な場合は申送り時やミーティング時に検討し変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	普通の会話や本人の行動の中から必要としていることを見極め、その都度柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	障害者通所施設への通所や、近隣のスーパーへの買い物、文化会館の催し物見学にお連れしている。(現在はコロナの影響で外出は控えている。)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ、入居前からのかかりつけ医に引き続き掛かって頂いている。体力低下で受診が困難になった方は、かかりつけ医に往診を依頼している。既往歴や主治医の連絡先など個々の情報をまとめたものを個人ファイルに閉じている。	個々の利用者様の情報は個人ファイルに閉じられ、入所前からのかかりつけ医等に引き続き受診し、受診が困難な場合は往診等を活用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で気づいたことは看護師に伝え、支持を仰ぎ、速やかに対応することで症状を悪化させないようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される場合は速やかに医療機関に情報提供を行なっている。また、病院関係者主催の勉強会や交流会にも出来るだけ参加するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に契約書と共に『重度化した場合の対応に関わる指針』と『看取りについての意向確認書』を本人、家族に示して同意を得ている。	重度化した場合や終末期のあり方については入居時に同意書を得ている。また医師連携も出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は職員が消防署の救急救命講習に交代で参加していたが、最近では参加できていない為、計画を立てて参加する必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害対策マニュアルを作成し、すぐに確認できるようにしている。また、消火器、緊急通報装置、スプリンクラーを設置している。年に1回消防署立会いの火災避難訓練を行っていたが、コロナの影響で今年度はできていない。夜間を想定した避難訓練は年3回程行っている。	非常災害対策マニュアルは作成され、非常食も準備され、避難訓練時には入れ替えも行っている。今までは火災訓練時には消防署立会で実施が、コロナ禍で今年度はできていない。	

[評価機関]

特定非営利活動法人ライフサポート楽楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を守ることを心掛け、利用者の言葉を否定せず、提案するようなコミュニケーションをとるようにしている。トイレや入浴時は肌の露出を防ぎ、羞恥心に配慮している。	職員全員で利用者の尊厳を守ることを心がけ、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どの入居者にも押し付けはせず、「○○なので○○したいと思います、いかがでしょうか？」と、声掛けをするようにし、事故決定を促すようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にあすなろの日課に合わせて声掛けするが、利用者の体調や気分に応じて柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族や居室担当が衣替えをお手伝いしている。その日の気温に合わせた服選びや身だしなみが困難な方には、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は、日曜日以外は給食受託業者を利用している。夕食は週に2回食材をとり、調理している。それ以外は畑で収穫した野菜や、スーパーで旬の食材を購入し調理している。手伝いのできる方には、餃子包みや、野菜の皮むき等をお願いしている。	手伝いのできる利用者には、一緒に参加して頂き、畑で収穫した野菜やスーパーで旬の食材を購入に調理している。外食が出来ない中、出前等も活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量、食種は入居者の状態の変化に合わせて柔軟に対応している。必要な方には水分チェックも行い、主治医に報告している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりにあった口腔ケアを訪問歯科で確認し毎食後行なっている。出来るだけ自分で歯磨きして頂き、磨き残しを介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意便意を訴えられない方でも、排泄パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を促している。	排泄パターンを把握して、出来るだけトイレでの排泄に心がけ、自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は野菜を多くし、繊維質をとって頂くようにしている。10:00のおやつには、ヤクルトとバナナを提供し、水分摂取量にも気を配っている。排便チェックも行ない、主治医の指示を受け対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回、入浴して頂いている。拒否のある方には無理強いをせず、時間をおいてから再度声掛けしている。リフトの設備があり、浴槽をまたぐことが困難な方には使用して頂いている。	3日に1回の入浴だが、希望があれば都度対応している。リフト設備が有りまたぐのが困難な方も入浴できる。季節の入浴も実施され楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的には、日中活動して頂き、夜間良眠できるよう、日課を作っているが、一人ひとりの体力やリズムも考慮し無理なく過ごして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬情を閉じ、すぐに確認できるようにしている。薬の変更は確実に申し送りし、スタッフに周知している。薬の変更後は十分に様子観察を行ない、記録に残している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には、ホームでの役割を持って頂き、自信を持って過ごして頂けるように支援している。本人の話をよく聞き、やりたい事はご家族の協力を得ながら実現できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には出来るだけ散歩にお誘いし、自然や近隣の方と触れ合っている。又、季節に合わせた外出で気分転換をして頂いている。個別に要望があれば、可能な限り、外出支援を行なっている。	コロナ禍で、遠出の遠足等が出来ない中、近くの散歩や道の駅への買い物等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方には、多額でなければ、自己管理して頂き、スーパー等で買い物をして頂いている。金銭管理が困難な方にはご家族から小遣いをお預かりし、金庫で管理し、必要時身の回り品を代理購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望があれば、すぐに対応している。聴力や会話に支援が必要な方は、お手伝いしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングと台所が一体になっており、料理の音や匂いで生活感を出している。リビングは日当たりが良く、畑の花や野菜が良く見えるようにしている。	共有のリビングは、日当たりが良く明るい雰囲気、畑の作物や花等が良く見え楽しむ事ができる。キッチンの香りや音を楽しむことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には、鍵を掛けることができ、安心して過ごして頂いている。リビングやサンルームでも好きな時間を過ごして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時、使い慣れた物の持ち込みをお勧めし、出来るだけ自宅に近い環境作りに努めている。エアコンやクローゼットは備え付けで快適に過ごして頂いている。又、居室担当者を決め、掃除もこまめに行なっている。	今まで使用していた家具等の持ち込みで、掃除等は、居室担当者と一緒に出来る事は行ってもらい居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シンプルな作りにし、手すりも付いており、安全に移動できるようにしている。見守りもしやすい作りになっている。		